

Meet the MOCO Collection
**Beyond Re-Creating:
Contemporary Works Inspired by
the *Yong* Lady of Tang China**

大阪市立東洋陶磁美術館 コレクション展関連テーマ展示

加彩婦女俑に魅せられて



WAKAMIYA Takashi

Producer of HIKOJU MAKIE

若宮 隆志

彦十蒔絵プロデューサー

ANDO Hideyuki

Professor, Department of Art Science,
Osaka University of Arts

安藤 英由樹

大阪芸術大学アートサイエンス学科教授

SAKAZUME Kotaro

Mask Artist, Ceramic Artist

坂爪 康太郎

陶芸家／仮面作家／アーティスト

クリエイティブディレクション

服部 滋樹 graf代表／クリエイティブディレクター・デザイナー



2021 **9.28**(火) - **12.26**(日)

主催：大阪市立東洋陶磁美術館

同時開催：〔企画展〕「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」

〔企画展〕「福井夫妻コレクション 古九谷」

〔コレクション展〕安宅コレクション 中国陶磁・韓国陶磁、

李秉昌コレクション 韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション 鼻煙壺

※同時開催の各展示は令和4(2022)年2月6日(日)までとなります

問い合わせ：大阪市立東洋陶磁美術館 電話06-6223-0055

加彩婦女俑 唐時代

大阪市立東洋陶磁美術館(住友グループ寄贈／安宅コレクション)

写真：六田 知弘

大阪市立東洋陶磁美術館
The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

moc
OSAKA

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

AFF
ARTS for the future!

Meet the MOCO Collection
Beyond Re-Creating:
Contemporary Works Inspired by the *Yong* Lady of Tang China

大阪市立東洋陶磁美術館コレクション展関連テーマ展示

加彩婦女俑に魅せられて

文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業



| 概要

住友グループ寄贈の「安宅コレクション」は当館の基礎となった世界的な東洋陶磁コレクションです。1982年の開館以来、安宅コレクションは当館のコレクション展示の中心であり続けています。コロナ禍において美術館におけるコレクションの重要性が再認識されている今、美術館の展示事業の基本となるコレクション展の役割と意義も今後益々大きくなっていくはずです。

そこで今回、当館の安宅コレクションを代表する作品の一つである中国唐時代の「加彩婦女俑」に焦点を当て、ジャンルの異なる3人の現代の作家たちが、この作品をモチーフとした新たな創作に取り組むというコレクション展に関連した新しい形のテーマ展示を企画しました。

1. 若宮 隆志 彦十蒔絵プロデューサー
2. 安藤 英由樹 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授
3. 坂爪 康太郎 陶芸家／仮面作家／アーティスト

なお、本展のクリエイティブディレクションは、
服部 滋樹 (graf代表／クリエイティブディレクター・デザイナー) が担当します。

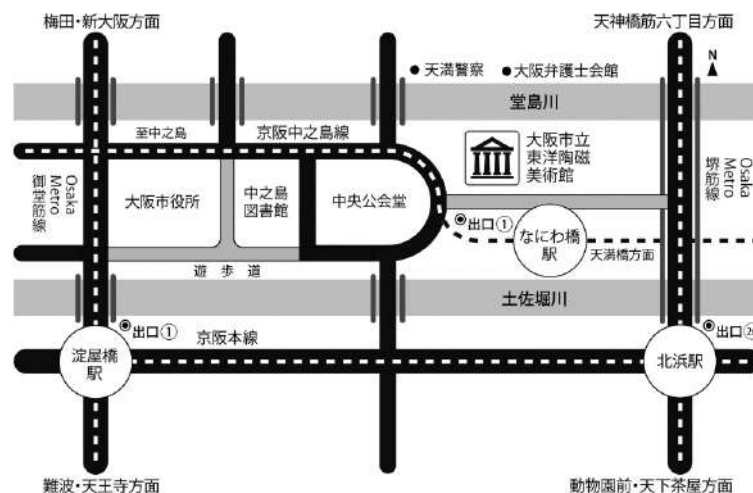
当館コレクションとの時空を越えた出会いが生み出す創作は、古陶磁と現代をつなぐ新たな可能性をひらくものといえます。本展を通して、「加彩婦女俑」のさらなる魅力や価値の発見につながる契機となれば幸いです。

なお、本展に併せて、アーティストトークやシンポジウムなど関連イベントを動画配信する予定です。詳細は決まり次第当館ホームページでお知らせします。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期の変更や入場制限等をおこなう場合があります。
最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

開催要項

1. 名 称：コレクション展関連テーマ展示「加彩婦女俑に魅せられて」
2. 出品作家：1. 若宮 隆志 彦十蒔絵プロデューサー
2. 安藤 英由樹 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授
3. 坂爪 康太郎 陶芸家／仮面作家／アーティスト
3. 主 催：大阪市立東洋陶磁美術館
4. 会 期：令和3(2021)年9月28日(火)～12月26日(日)
5. 会 場：大阪市立東洋陶磁美術館 本館ロビー
6. 同時開催：[企画展]「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」
[企画展]「福井夫妻コレクション 古九谷」
[コレクション展]安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁、
李秉昌コレクション韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺
※同時開催の各展示は令和4(2022)年2月6日(日)までとなります
7. 開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
8. 休 館 日：月曜日
9. 入 館 料：一般1,400(1,200)円、高大生700(600)円
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)、
大阪市在住の65歳以上の方は無料(証明書等提示)
10. アクセス：大阪市北区中之島1-1-26(大阪市中央公会堂東側)
京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ
Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」
Osaka Metro堺筋線・京阪本線「北浜」各駅から約400m
11. 問い合わせ：大阪市立東洋陶磁美術館
電話 06-6223-0055 FAX 06-6223-0057
ホームページ <https://www.moco.or.jp>



出品作家

わかみや たかし
若宮 隆志

彦十蒔絵プロデューサー

WAKAMIYA Takashi

Producer of HIKOJU MAKIE

この度、かねてより念願であった加彩婦女俑、加彩宮女俑を漆器で制作する機会を得た。加彩婦女俑は曲線的な造形と穏やかな顔や手の表情に魅力を感じていたので粘土から形をおこして麻布と漆で制作する乾漆技法を用いて制作するのが相応しいと考えた。手には鳥がとまっていたかもしれないとの事であったので想像で鳥を制作した。加彩宮女俑は繊細な造形に複雑な装飾があるので木彫で表現するのが相応しいと考えた。陶器の作品をあえて漆器で見立て制作する事を彦十蒔絵では「見立漆器」として商標登録している。見立は対象を何か別のものになぞらえて表現する美意識で和歌や俳諧でも用いられ洒落にも通じ私の好きな表現方法である。今回この2点の作品をこの時代に漆器で制作することで、漆芸の可能性を広げる事と加彩婦女俑、加彩宮女俑に対し更に関心が高まる事を期待している。

漆芸家として作品発表を行う傍ら、塗師や蒔絵師といった一つの職分に止まらず、伝統的な意匠や文様の継承を考えながら新しい作品を企画し、それに相応しい職人を育成組織する「彦十蒔絵」のプロデューサーとしても活動している。漆器の市場開拓、海外発表なども積極的に展開している。



- | | |
|----------|---|
| 1964年 | 石川県輪島市生まれ |
| 2004年 | 彦十蒔絵の名前で活動始める |
| 2005年 | Museum für Lackkunst(ミュンスター／ドイツ)にて作品収蔵 |
| 2007年 | Victoria and Albert Museum(ロンドン／イギリス)にて作品収蔵 |
| 2014年 | 2014年度文化庁文化交流使 |
| 2016年 | 香港大学美術博物館「若宮隆志の芸術～現代日本蒔絵」個展 |
| 2017年 | 「香港国際アンティークフェア 特別日本漆芸展」出品 |
| 2018年 | ドイツ・ミュンスターMuseum für Lackkunst
「世界の漆友人展～Dr. Monika Kopplin館長退館記念展」出品 |
| 2019年 | 中国湖北美術館「2019湖北国際漆芸三年展」出品 |
| 2019-21年 | 特別展「小村雪岱スタイル—江戸の粋から東京モダンへ」出品
(岐阜県立現代陶芸美術館、三井記念美術館、富山県立水墨美術館、山口県立美術館) |
| 2020年 | 大阪市立東洋陶磁美術館特集展「現代の天目—伝統と創造」出品
サントリー美術館「リニューアル・オープン記念展」出品 |
| 2021年 | 石川県輪島漆芸美術館開館30周年記念特別展「メイド・イン・ワジマ漆の時代」出品 |
| 現在 | 輪島漆再生プロジェクト実行委員会代表 |

出品作家

あん どう ひで ゆ き
安藤 英由樹

大阪芸術大学アートサイエンス学科教授

ANDO Hideyuki

Professor, Department of Art Science, Osaka University of Arts

8世紀につくられた加彩婦女俑から、元来持っていた色彩は失われ、そのことが逆に様々な想像を駆り立てる。今だったらどんな色使いがあるだろうか？「加彩再加彩」では3Dで映し出される婦女俑を指先で回したり、自在に色を塗ることができる。あなたが思うように彩色してみしてほしい。「带我去未来」では、透過ディスプレイによって、貴重な美術品に影響を与えることなく、映像を重ねるAR技術を用いている。今回は3Dスキャン&プリント技術を用いて複製された婦女俑に対し、昔はこうだったけど今だったらこうしたいだろうか？などと思いを馳せた芸大生の妄想を具現化してみた。加彩婦女俑によって想起される過去から未来。案外デジタルがその後押しをしてくれるのかもしれない。

ヒトの感覚-知覚-運動の原理をもとにVR、AR、XRの分野を中心に錯覚利用インタフェース、医師と共同して手術追体験トレーニングシステム、Wellbeingを実現する情報技術と社会デザインなどの研究に従事。70篇以上の論文、50件以上の特許など基礎研究に加え、芸術表現としての先端的科学技術の社会貢献にも関心を寄せ、自らも作品制作を行なう。



- | | |
|----------|---|
| 1974年 | 岐阜県可児市生まれ |
| 1999年 | 愛知工業大学電気電子工学専攻修士号取得、博士課程中退 |
| 2001年ー | 東京大学にて、JST「協調と制御」領域研究員 |
| 2004年 | 東京大学で論文博士として博士(情報理工学)授与 |
| 2004年 | NTTコミュニケーション科学基礎研究所研究員 |
| 2008年 | 大阪大学大学院情報科学研究科准教授
第12回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞 |
| 2009、11年 | PRIX ARS ELECTRONICA
(アルス・エレクトロニカ インタラクティブ・アート部門)HonoraryMention受賞 |
| 2020年 | 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授(現在にいたる) |

出品作家

さかづめ こうたろう 坂爪 康太郎

陶芸家／仮面作家／アーティスト

SAKAZUME Kotaro

Mask Artist, Ceramic Artist

加彩婦女俑を題材に、2点の作品を制作する。1点目は加彩婦女俑の3Dデータを利用し、加彩婦女俑の成形型や複製品の制作を試みる「加彩婦女俑レプリケーション」。フォトグラメトリなどによる3Dデータの採取や3Dプリントが普及した現代では、既存の立体物の形状コピーは以前と比べ格段に容易になった。このような時代背景で、オリジナルという定義もまた変化し、揺らいでいる。私は加彩婦女俑のオリジナルが既に複製技術である型成形で制作されていたという点にオリジナリティを見出し、その成形工程ごと再現を試みる。2点目は加彩婦女俑をモデルにした仮面の創作だ。仮面制作は私にとって対象となる場所や時代と関わるための儀式のようなものだ。日本には中国より伝わった伎楽で用いられる伎楽面という仮面があり、日本最古の演劇面だとされている。加彩婦女俑が制作された唐時代は、伎楽面伝来の時期とも重なる。伎楽面は、頭からすっぽりと被るため後頭部までつくられているので、頭部の造形は見所の一つだ。法隆寺に納められている呉女の伎楽面にも頭頂部にみごとな双環髻そうかんけいが表されている。この伎楽面の様式に則り、加彩婦女俑の特徴的な鬢びんまげや髻の形状を取り入れたTOMB LADY MASK feat. GIGAKU STYLEを制作する。

民族儀礼に用いられる仮面や祭具、SF小説やアニメなどの物語を題材に、立体作品やコラージュ作品を制作する。2018年にはバーチャルろくろでデザインしたセラミックプロダクトを展開するP&A ceramic wareをスタートさせる。陶芸教室P&A ceramic classの運営も行うなど多方面で活動する。



- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1988年 | 東京生まれ |
| 2012年 | 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科陶磁専攻卒業 |
| 2015年 | 西武渋谷シブヤスタイル vol.9 出展 |
| 2016年 | KOHLER Bold Art 上海2016 選出 |
| 2017年 | ささま国際陶芸祭2017 出展 |
| 2019年 | ささま国際陶芸祭2019 出展 |
| 2019年 | ART START UP 100選出 |
| 2020年 | 個展A space Odyssey／STUDIO hive |

出品作品

若宮 隆志

彦十蒔絵プロデューサー

み たて しっ き か さい ふ じょ よう 見立漆器 加彩婦女俑

脱活乾漆

2021年

高48.8cm、幅20.2cm×21.0cm

重さ433.5g



み たて しっ き か さい きゅう じょ よう 見立漆器 加彩宮女俑

木製漆塗 蒔絵

2021年

高37.7cm、幅14.5cm×10.0cm

重さ454g



安藤 英由樹

大阪芸術大学アートサイエンス学科教授

か さい さい か さい 加彩再加彩

3Dスキャンデータ、
空間再現ディスプレイ

2021年

高23.1cm、幅38.3cm×23.2cm



制作協力

プログラム作成

大阪芸術大学大学院芸術文化学専攻

山本康介

ダイ ウォ チューウェイ ライ

带我去未来

高解像度フォトグラメトリデータ、
アクリル系紫外線硬化樹脂、
透過液晶ディスプレイ

2021年

高75cm、幅50cm×50cm



制作協力

コンテンツ作成

大阪芸術大学アートサイエンス学科

秋山奈伎紗, 置塩仁司, 大日方三都彦, 土居能恵留,

中西音和, 西尾拓真, 二宮京也, 野口鈴奈,

前北和威, 屋我龍寛, 八島悠南, 和辻紳太郎

坂爪 康太郎

陶芸家／仮面作家／アーティスト

か さい ふ じょ よう 加彩婦女俑 レプリケーション

作品: 素焼き陶器

型: 石膏 原型: ホワイトレジン

2021年



TOMB LADY MASK feat. GIGAKU STYLE

作品: 素焼き陶器に着色

台座: ステンレス、鉄

2021年

高40cm、幅40cm×30cm



｜ 関連イベント(予定)

Vol.1

加彩婦女俑に魅せられて

配信日(予定):10月22日(金)

- オープニングレクチャー「加彩婦女俑の美」小林 仁 担当学芸員
- アーティストトーク1 若宮 隆志 彦十蒔絵プロデューサー
- 対談:若宮 隆志×小林 仁

Vol.2

伎楽面になった加彩婦女俑

配信日(予定):11月5日(金)

- アーティストトーク2 坂爪 康太郎 陶芸家／仮面作家／アーティスト
- 鼎談:坂爪 康太郎×服部 滋樹×小林 仁 feat. バーチャルろくろシステム“roquro”

Vol.3

加彩婦女俑とテクノロジー

配信日(予定):11月19日(金)

- アーティストトーク3 安藤 英由樹 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授
- シンポジウム「アートとサイエンス(仮題)」

登壇者:

- ・安藤 英由樹 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授
- ・萩田 紀博 大阪芸術大学アートサイエンス学科教授、学科長
- ・服部 滋樹 graf代表／クリエイティブディレクター・デザイナー
- ・出川 哲朗 大阪市立東洋陶磁美術館館長
- ・小林 仁 担当学芸員

※配信日や内容については都合により変更になる場合があります。
※詳細は決まり次第当館ホームページでお知らせします。